

大製薬企業会社、50万の女性を不妊化するワクチンの使用 が露見

政府による破傷風ワクチン接種が50万を不妊化した後、ライセンス撤回

【訳者注】前の、ポール・ウォーカー謀殺疑惑の記事に併せて、この大量人工不妊計画を読まれるなら（そしてさらに、インフルを含めたワクチンによる、報道されない、直接の大量死を考え合わせるなら）、New World Orderのアジェンダの、恐ろしさと根深さが、浮かび上がってくるだろう。この人口削減計画を推し進めているのは、もちろんクリントンだけでなく、犯罪国家・犯罪企業のすべてが関わっている。また、これらの記事に上がっているだけでも、被害国は、ハイチやケニアのほかに、メキシコ、ニカラグア、フィリピンなどがある。またそこに関わっているのは、ビッグ・ファーマの他に、WHOやユニセフのような国連機関、被害国のトップの腐敗などであることがわかる。さらに歴史的には、「優生学」、弱肉強食など、犯罪の根拠となり、人間そのものの価値を否定する、ダーウィン進化論が、その見えない力になっている。人工不妊（男は断種）は、1920年代のアメリカでは盛んだった。ヒトラーは、自分はアメリカの真似をただけだ、と言った。今、彼が生きていれば、きっと、「アメリカは私のなしえなかったことを、やってくれている」と言うだろう。

Jay Greenberg, www.neonnettle.com

February 4, 2018



ビッグ・ファーマの会社が、女性や子供を不妊化するワクチンを発見され、閉鎖される

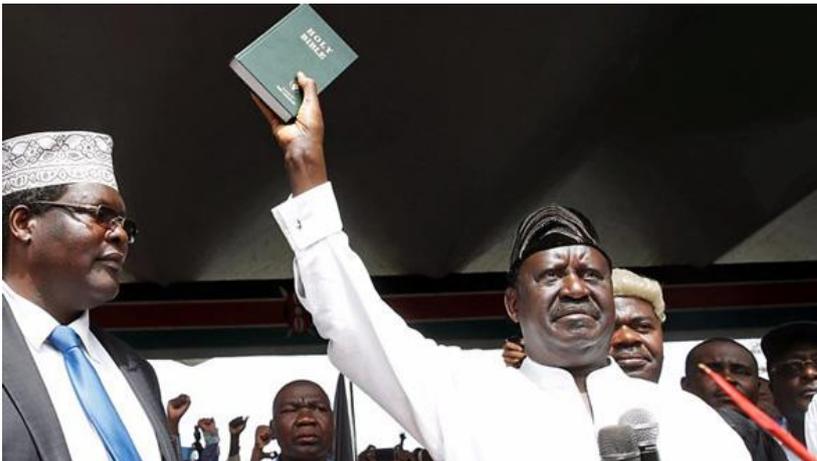
あるビッグ・ファーマの会社が、政府の強制によるワクチンに不妊ドラッグを加えており、これが 50 万の女性と子供たちを不妊症にしたことがわかり、そのライセンスを撤回された。

今週、ケニアの、“人民の大統領”として名乗り出た Raila Odinga という人物が、テストの結果、50 万の市民が、現在、国家スポンサーによる破傷風ワクチン接種によって、不法な強制不妊化処置を受けていることが確認された、と確言した。

ある大きな製薬会社の研究施設が、その後、調査の結果、ケニアの認定局によって、そのライセンスを停止させた。

オディンガによれば、2014 年と 2015 年に、政府によって取り入れられたワクチンは、50 万人の女性と少女を不妊症にしたという。

報道によれば、この不妊ドラッグは、より大きな人口削減実験の一部として、破傷風ワクチンに加えられたと考えられている。



ライラ・オディンガは、ケニアの“人民の大統領”として宣誓した

FTP によれば、この論争が最も激しくなったのは 2016 年、ナイロビに拠点を持つ製薬会社 Agriq-Quest が、ケニアの保健省と、その破傷風およびポリオ・ワクチン接種について、論争を始めたときだった。 <http://thefreethoughtproject.com/pharma-co-vaccine-license-sterilization/>

事の起こりは、カトリックの医者グループが、このワクチンには、若い女性には危険な、不妊化の潜在性を持つホルモンが含まれている可能性がある、と主張したことだった。

Presse Africaine の代理局はこう報道している：――

「オディングは、この国で最も早熟な 14 歳から、49 歳の間の女性たちは、子どもを持つことができないだろう、なぜなら、国家スポンサーによって行われている、破傷風のワクチン接種は、この国に売りつけられたものだからだ、と言っている。

「カトリック教会は、このワクチンの安全性について、重大な懸念を表明した後、破傷風ワクチンの大量接種に対して、激しくしかし孤立無援の運動を行ったが、それは無視されていた。

「その当時、ケニアのカトリック教会は、ケニア政府と国連機関によって用いられている破傷風ワクチンは、あるホルモン（hCG）に汚染されており、これは流産を引き起こし、女性を不妊症にする可能性のあるものだと主張していた。

オディングは続けてこう言った：――「教会の主張は、メキシコ、ニカラグア、それにフィリピンで起こったことによって、事実であるとわかった。そこでは、いろんな政府が WHO/UNICEF と一緒になって、同じようなワクチン・キャンペーンを行っていた――同じように、少女や女性たちの間で永久的不妊を起こさせる、ベータ・ヒト絨毛性ゴナドトロピン（BhCG）を含んだ破傷風トキソイドを使うキャンペーンだった。」

オディングは、彼らは、サンプルの分析を通じて、使われている ワクチン が、このホルモンに汚染されていたことを確認したと言っている。

<http://www.theneonnettle.com/tags/vaccine>

「今日、我々は、国に対して、カトリック教会は正しかったと確認することができる。何十万という、わが国で最も早熟な 14 歳の少女から、49 歳の女性たちが、子どもをつくれなくなったのは、破傷風ワクチンとしてこの国に売り込まれた、国家スポンサーによる不妊促進剤のおかげなのだ」と彼は言い放った

Agriq-Quest のライセンスが停止されて以来、この会社は、責任は政府にこそあると言っている。

政府は、彼らがライセンスの停止を決定したのは、Agriq-Quest 社が、医者にテストさせるのを拒否したからだと言っている。

参考ビデオ：「ライラ・オディング：政府は女性たちに不妊薬のワクチンを注射している」

https://youtu.be/4PA_ZV6SSKo



50 万の若い女性たちが、ワクチンによって、子を産めない体になっている

Business Daily Africa によれば、Agriq-Quest 社がこのワクチンのテストを行ったとき、彼らは、カトリック教会の疑念が正しいことを発見した。

<https://www.businessdailyafrica.com/Corporate-News/Licence-of-industrial-lab-Agriq-Quest-suspended/539550-3515280-j78flcz/>

BDA はこう報じている：——「会社が薬瓶について行ったテストの結果は、このワクチンのサンプルが、カトリック教会が主張していた通り、汚染されていたことを示した。しかし Agriq-Quest 社は、その結果に手を加え、女性や子供たちに投与しても大丈夫であると見せかけるよう、政府が希望したのだと主張した。」

オディンガによれば、APA が報道したように、政府は、何らかの不可解な理由によって、何が何でも国家をミスリードして、ケニアの女性や少女たちを、意図的に不妊症にしようとしたのだという。

「このワクチン接種は、女性に対して犯された大犯罪だった。女性は、いつ子どもが欲しいか、どのように間をあけるかを、選べるのでなければならない」と彼は言った。

指摘すべき肝心なことは、破傷風ワクチンが市民を不妊化しているという考えが、ケニアで

はずっと前から論争になっており、こうした主張が起こる前には、その主張に根拠なしとされてきたことである。

また、この論争が頂点に達してからは、テストの結果、汚染が証明されたにもかかわらず、UNICEF（国連児童基金）や WHO（世界保健機構）は、後に、ワクチンは安全だったが、資格をもたない製造業者から得られた結果だった、と言った。

しかし、オディングによれば、彼らが分析のためアクセスしたのは、Agriq-Quest Ltd、ナイロビ病院研究所、ナイロビ大学、Lancet Kenya という、4つの高く評価されている研究所だったという。

「これらの調査結果のすべてが、この破傷風トクソイド・ワクチンには、女性の不妊を引き起こす、高い内容量の、ベータ・ヒト絨毛性ゴナドトロピン（BhCG）が含まれていることを示しているのだ。」

――以上